

八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立恩方第一小学校
校長名 佐藤 勇輝 公印

令和7年度教育課程について(届)

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

子どもたちが意欲をもって学び、豊かな社会性を身に付け、心身ともに健やかに成長できるよう、次の児童像を掲げて学校教育を充実させる。

- よく考える子(知) ……確かな学力を身に付け、深く考えて行動する子
- ◎思いやりのある子(徳) …豊かな心を持ち、互いに認め合い、助け合う子(重点目標)
- じょうぶな子(体) ……何事にもくじけない気力と体力を身に付けた心身ともに健やかな子
- よく励む子 ……自分を伸ばすための努力を惜しまず、ねばり強く取り組める子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 豊かな心の育成

- ・「親切、思いやり」を重点とした道徳科の授業や、特別活動における様々な集団活動への自主的、実践的な取組を基にして、自他を尊重する姿勢を養い、互いを思いやる心を育む。
- ・自己の生き方についての考えを深める学習や、キャリア教育の充実を通して、ウェルビーイングを実感できるようにする。

イ 確かな学力の育成

- ・児童の実態に応じて、学習習慣の定着や基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図り、確かな学力の基盤とする。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現や、地域資源を活かした探究的な学習の質的な充実、1人1台の学習用端末の活用等による授業改善を通して、思考力・判断力・表現力等を高め、学習意欲の向上を図る。

ウ 健やかな体の育成

- ・体育科の学習や体力調査を中心として、運動や健康等に関する自身の課題を見付け、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組ませることで、心身の健康の保持増進を実現する。
- ・安全教育の充実を図り、児童が危険を予測し回避する知識や能力を身に付けられるようにする。

エ 不登校児童への支援

- ・不登校児童が安心して社会とつながることができるように、家庭や関係機関と連携を図り実態把握や情報収集に努め、多様な教育機会・居場所の確保などのニーズに応じた支援を行う。

オ いじめ防止等の取組

- ・学校いじめ対策委員会の定期開催及び臨時開催を軸にして、地域・関係機関と連携し、各フェーズに応じて組織的・継続的に確実な対応をとる。

カ 特別支援教育の充実

- ・特別支援教育についての理解を深め、インクルーシブな教育の充実に努める。

キ 小中一貫教育のさらなる充実 【恩方中学校グループ(恩方第一小、恩方第二小、元木小)】
【恩方中学校グループ(恩方第一小、恩方第二小、元木小)】におけるグループの共通目標は、「よく考え、学ぶ児童・生徒」「心身ともに健康でたくましい児童・生徒」「自らの進路を切り拓く児童・生徒」である。また義務教育修了段階で育てたい生徒像は、『自らの力で生き抜く健康で逞しい心身を備えた生徒』である。そのために、小中一貫教育を推進し、学習面や生活面の系統性・継続性を重視した指導を行う。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科（外国語活動を含む）

- ①ねらいを明確にした問題解決型の授業で、解決への見通しや意欲、期待をもたせたり、意見交換をさせたりするなど、興味を引く導入や展開を工夫し、論理の深まりや学びの楽しさを実感できるようにする。このように思考・判断をして表現をさせる場面の意図的・効果的な設計により、主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業力向上をめざして教材理解やOJTの取組をすすめる。
- ②八王子市学力定着度調査の、基礎・応用、出題形式、観点や領域別の平均正答率、4層分析などから、学校や学年ごとの学力の特徴を教員間で共有し、それぞれの課題を踏まえた学習を展開する。
- ③1人1台の学習用端末の効果的な活用を推進する。ICTの特性を活かして、情報の収集・整理・比較の機会を増やしたり、話し合い活動を充実させたりして、自己の考えを広げ深める子を育成する。また、家庭学習や習熟のための時間でのドリル型学習用コンテンツなどの活用を通して、日常的に児童一人ひとりの課題に応じた学習の機会を設け、個別最適な学びを実現する。
- ④体育科の授業における各領域の特性を踏まえた動きや技のポイントから課題を見付ける活動、東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査での自身の経年変化を基にした取組など、児童の体力・運動能力の向上において、自身の課題の解決に向けた活動ができるようにする。
- ⑤専門性の高い教科指導や中学校への円滑な接続のために、交換授業や教科担任制の実施をすすめる。

イ 総合的な学習の時間

- ①探究的な活動に取り組めるよう、総合的な学習の時間を中心にしたカリキュラム・マネジメントを行い、粘り強く課題を解決する過程で、自己の生き方を考えていけるようにする。
- ②学校コーディネーターの協力の下、地域の自然や歴史、伝統・文化、安全・防災等の教材化をすすめたり、地域の方々を外部講師に招いた授業を設定したりすることで、地域の良さを学ぶ探究的な学習を実施する。

ウ 特別活動

- ①縦割り活動で、事前のリーダー会議を充実させたり、話し合いツールを共有化したりして、豊かな活動ができるよう工夫することで、自他の考えや意見を尊重したり、相手に寄り添って考えたりして、互いに思いやりをもって接することができるようにする。
- ②学校行事や委員会活動、クラブ活動において、互いの良さや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

(2) 「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育

- ①道徳教育全体計画や別葉を基に、教育活動全体を通じて計画的に道徳教育を推進することを通して、自他を尊重し、互いを思いやる心の育成を図る。
- ②「親切、思いやり」を重点として、児童一人ひとりが道徳的課題を自分自身の問題として捉え、道徳科の授業では、「考える道徳」、「議論する道徳」をめざし、授業改善を図る。

(3) キャリア教育

- ①「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を用いて自己の変容を振り返らせ、これからの学びや自己の生き方を見通せるようにする。また、将来への夢や希望をもち、自分らしい生き方を実現していくための働きかけを行う。
- ②「保幼小連携の日」の取組として、近隣保育園職員と保育参観やスタートカリキュラム等についての協議を行う。また、3学期の園児との交流、就学支援シートや各園からの聞き取った情報をスタートカリキュラムに活かす。

(4) 特別支援教育

- ①児童一人ひとりのニーズに応じて特別な支援や合理的配慮を行うため、1人1台の学習用端末を活用したり、学習環境を整備したりして、適切に指導する。また、研修を通して特別支援教育についての理解を深め指導に活かすことで、インクルーシブな教育を推進する。
- ②スクールカウンセラーや関係諸機関と連携し、校内委員会を中心とした支援体制を充実させる。個別指導計画・学校生活支援シートを活用し、学校全体で方向性の理解と体制の確認を行う。
- ③特別支援学校との副籍交流では、間接交流として学校だより等の交換を行い、相互理解を深める。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ①生活のきまりを本校児童の実態に即して年1回見直し、改善する。
- ②SNS等の情報モラル、セーフティ教室及び自転車教室等において、関係諸機関との連携をすすめる、自分の身を守る危機管理能力を育成し、安全に関する意識を向上させる。
- ③児童が性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないために「生命（いのち）の安全教育」を年間指導計画に位置付け、児童の発達段階に応じて確実に実施する。

イ いじめ防止等の取組

- ①八王子市教育委員会いじめの防止等に関する基本的な方針、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめに関するアンケート等を基に、週1回の定期開催及び臨時開催の学校いじめ対策委員会で協議を行うことで、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を図り、安心安全な学校づくりを組織ですすめる。
- ②週一回のいじめ対応の時間における情報共有により、関係機関との連携や家庭の協力の下、いじめの解決に向けた対応がとれるようにする。
- ③「八王子市いのちの大切さを共に考える日」には、校長からの講話を基に、各学年において命の大切さに対する理解を深める授業を実施する。

ウ 不登校児童への支援等

- ①家庭や関係機関との連携により不登校児童の状況を把握し、1人1台の学習用端末によるオンライン授業や、別室登校等、ニーズに応じた教育機会や居場所確保などの支援を行う。
- ②登校支援コーディネーターを中心に個票システムを活用し、児童の登校状況などの実態を的確に把握し、早期対応のために教職員全体で情報を常に共有する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、全職員が協力して支援する体制を作る。

(6) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取り組み

【恩方中学校グループ(恩方中、元木小、恩一小、恩二小)】

(取組1) 恩方中学校グループ(恩方中、元木小、恩一小、恩二小)の授業交流や生徒会・児童会が連携し、同じ教育課題について、各校が「はちおうじっ子サミット」を軸とした課題解決の取組を行う。その成果を共有し、小中で指導についての共通理解を図る。

(取組2) 児童・生徒の学習の定着に関する状況把握・情報共有を「学力定着プロジェクトチーム」を中心に行い、小中共通の指導による授業規律の徹底(着席チャイム)をさらに深化させる。

(取組3) 誰一人取り残すことなく義務教育終了段階の学力を保障するため、はちおうじっ子キャリア・パスポートを活用した児童・生徒の諸情報の共有、引継ぎを確実にを行い、共通理解を深める。

(取組4) 日本遺産の桑都物語アナザーストーリーとなる「千人同心」教育を学校運営協議会とも連携しながら小学校では日光を、中学校では苦小牧を訪れることで「千人同心」の郷土教育を深めていく。またオンラインで姉妹校の苦小牧市立勇弘中学校の生徒との交流を実施する。

イ 学力向上の取組

- ①「はちおうじっ子ミニマム」の全問正解チャレンジへの取組や、九九などの100%の習熟に向けた業間補習などを通して、最低限身に付けるべき基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざす。

ウ その他

- ①児童が自分自身で学習用端末を使いこなせるよう積極的に活用を進め、「情報活用能力系統表」に基づいて、義務教育9年間を見通したICT活用に関する資質・能力の育成を図る。
- ②恩方第一小学校2020レガシーとして「八王子車人形」の家元の指導の下、人形を操作して演じる体験活動を充実させる。地域の伝統文化に直に触れさせることで、日本人としての自覚と誇りをもたせる。
- ③地域活動の取組として、小田野中央公園まちづくりの会の共同事業に低学年が参加を促し、見取った活動を評価する。